

低コスト 新字幕システム

ニュース原稿変換 AIも活用

TBSがCS放送のニュースチャンネル「TBS NEWS」に24時間字幕が付けられるシステムを開発して間もなく1年になる。低コストで字幕を付けられるようにしたといい、資金力のないローカル局からも注目を集めている。

(浅川貴道)

TBS社員開発 放送基金賞

開発したのは、TBS送出部社員の木村浩也さん。字幕放送は聴覚に障害を抱える人や、音が聞き取りにくい場所での視聴のためのシステムだ。対応する番組では、リモコンの「字幕」ボタンを押すことで画面に表示される。

開発のきっかけは、総務省が2018年2月に発表した字幕放送などの普及に関する指針。これによると、深夜を除く時間帯では、NHKや在京民放キー局は複数人の対談など技術的に

困難なケースなどを除く全番組に字幕を付けることが求められている。

字幕を打ち込む作業は、人力で行うのが通常。訓練された速記者が放送を見て字幕を打ち込んでいた。ただし、指針を満たすために速記者を増員すると、人件費が非常に高くなる。

そこで考案したのは、キャスターが読む原稿を事前にデータ化して、そのまま字幕として表示する方式を柱としたシステム。原稿のないニュースに関し

ては、AI（人工知能）を活用した上で文字変換を行う方式も併用することにした。

あらかじめ用意された原稿を読むことが多いニュースチャンネルだから、その原稿を字幕にしてみようという、逆転の発想だ。「字幕と言えは、速記者が付けるものという思いこみがあった。そこをなくしてアイデアを考えた」

このシステムをTBSは昨年9月に導入。まだ全番組に字幕を付けるには至っていないが、24時間対応することは技術的に可能になった。「アルバイト1人でも簡単に字幕を付ける作業ができるようになりました」と木村さんは胸を張る。今年6月には、優れた放送文化や技術をたたえる放送文化基金賞の個人賞を受賞した。

指針では、27年度までにローカル局にも80%以上の番組に字幕を付けることが求められている。そのため、より安く字幕を付けることのできる今回のシステムに、注目が集まっているという。「ローカル局からも問い合わせがきています」と木村さんは語る。

今後の課題は、AIの精度を上げて、さらに幅広い番組に字幕を付ける技術を確認することだ。現状は、トーク番組やワイドショーなど、複数の会話が飛び交う番組には、速記者なしでは正確な字幕を付けることは難しい。「『ひるおび』や『あさチャン』といった、複数の人が話をするような情報番組にも、低コストで字幕を付けられるようにしたい」と、木村さんは目標を語る。



字幕システムを開発したTBSの木村さん。手前のパソコンを1人で操作するだけで、ニュース画面に字幕を付けることができる



ニュースに付ける字幕は、これまで人力で打ち込むのが主流だったが、新システムの開発により、低コストで付けることが可能になった